

事業所名

amity

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

3月

21日

法人（事業所）理念		事業者は、支援の提供に当たっては、利用者が日常生活における基本動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適応することができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導訓練を行うものとする。								
支援方針		幼稚園や保育園、学校等集団生活のなかで本人が困らないように、保護者、本人のニーズに合わせた療育をSSTやペアトレを活用し支援していきます。								
営業時間		9時	30分	から	17時	30分	まで	送迎実施の有無	○あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	健康管理（児童発達支援・放課後等デイサービス）本人が健康に過ごすために清潔についての声かけ、清潔不潔に関する声かけや手洗い指導、マスクの着脱についての指導を行う。 生活リズムの構築（児童発達支援）児童発達支援については、生活リズムを構築するために昼寝の時間を設け本人が活動しやすいように、支援を行う。 （児童発達支援・放課後等デイサービス）食事やおやつに関して、姿勢を正し食事に向かう姿勢を作り食具をきちんと使用し食べる様に、声かけ指導を行う。 偏食に関しては、一口でも本人が食べられるよう工夫し、支援する。								
	運動・感覚	（放課後等デイサービス）夏はプール授業、冬は体育館活動、年に一度はスケートの授業など運動を楽しめるように様々な経験を通して運動や感覚を刺激できるよう支援をしていきます。 プール授業では、ほとんどの児童が水に慣れ、泳げるように指導しています。 （児童発達支援・放課後等デイサービス）体育館活動では、ボールを利用し蹴る、投げるなどの運動からの当たる練習までボールをコントロールできるよう指導を行っています。								
	認知・行動	（児童発達支援・放課後等デイサービス）体育館活動にてトランプを活用した絵合わせやSSTを行い、視覚や聴覚からの指示が入りやすくなるように、工夫し支援を行います。 また、ブロックを活用した色合わせなど子供たちが楽しく学べるよう声かけや指導を行っています。 行動について、子供たちにわかりやすいように声かけを行い、集団生活の中でも本人が孤立しないように活動を進めています。								
	言語 コミュニケーション	（児童発達支援・放課後等デイサービス）普段の生活の中で使う言葉を本人が分かりやすいように変換を行い、指示を行います。 徐々に集団生活で困らない様に言葉の変換を行うことによって本人にもわかりやすく、取り込みやすいように工夫して伝えていきます。 子供同士でのコミュニケーションが円滑になるように、職員が介入をしていきます。								
	人間関係 社会性	（児童発達支援・放課後等デイサービス）他人から見て自分が使っている言葉はどうかを確認できるよう声かけを行っています。 子供同士でのコミュニケーションを成立できる様に、見守りを行い適宜介入を行います。 社会性を育むため、お買い物活動などを通して社会とのかかわりを持ち、社会のルールを身に付けられるように支援を行う。								
家族支援		家庭での困りごとに関する相談、サポート 保護者のニーズに合わせた利用日数調整 延長支援サービス利用				移行支援		学校や幼稚園、保育園など関係機関との連携		
地域支援・地域連携		ボランティアサークルの活動への参加				職員の質の向上		定期的な研修会 ケース会議による児童の情報共有 職員会議による職員間の方向性の統一		
主な行事等		豆まきやお雛様、クリスマス会など各種季節ごとの行事 夏はプール授業、冬は体育館活動、年に一回のスケート授業 避難訓練など								